

## 6.2 教育研究指導のあり方

### 2005年以降に設定した目標

1. 指導教員だけでなく、副指導教員との共同指導体制をより充実させていくため、副指導教員の位置づけの明確化をはかる。
2. 社会人、外国人留学生についてはキャンディデート取得プロセス・ガイドに準拠した指導をおこなうとともに、社会人、外国人留学生向けのプロセス・ガイドの作成も検討する。
3. 課程博士キャンディデートについては、取得後の提出期限をより具体的に提出年度を含む2年以内にするなどの規定の見直しを進める。

### 進捗状況報告

- 1については、申し合わせで副指導教員1名以上をつけることを義務化した。
- 2については、社会人、外国人留学生向けのプロセス・ガイドの作成に着手した。
- 3については、課程博士キャンディデート取得後の提出期限を、申し合わせで提出年度を含む2年以内とした。

### 学内第三者評価

2005年度の自己点検・評価の「改善の具体的方策」に記した改善目標がほぼ実施され、改善が進んでいる。副指導教員制の制度化、社会人、外国人留学生向けのプロセス・ガイドの作成について、着実な展開を見ていることは評価できる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。  
・改善が具体的に進んでいるものと評価できる。プロセス・ガイド作成を含め、体系的な指導の行えるシステムが整備されつつある。